

平成30年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【学校理念】「真善美」を校訓に、豊かな人間力をはぐくむ

【教育方針】

1. 「鍛える」 頑張ることができる力（心・体・知のトータルバランス）
2. 「見守る」 十人十色の個性と成長、集団の力
3. 「高める」 豊かな教養・人権感覚・国際感覚・他者貢献

【めざす学校像】

100年を超える伝統を受け継ぎながら、生徒のニーズや保護者の期待に応える学校

- ◎生徒一人ひとりの自己実現を最大限に支援する学校
- ◎すべての生徒が安全・安心に生活できる学校
- ◎保護者や地域のみなさんとしっかり連携し、生徒の生きる力を引き出し育てる学校

2 中期的目標

生徒の自己実現を図るため、生きる力を引き出し育て、一人ひとりの希望する進路を実現する。

1. 学力を伸ばす～基礎・基本の徹底、その上に成り立つ自分で考え自分の言葉で説明できる力の育成。

- (1) 3年間の学習目標と計画「寝屋川高校スタンダード」の策定
- (2) 学力向上を図るための組織的な体制を構築する。
- (3) ICT機器の積極的活用、習熟度別授業やグループ学習等の授業形態や授業方法の研究を進め、系統的・効果的な教科指導の確立を図る。
- (4) 授業評価や研究公開授業・内外の研修等を通して、教員一人ひとりの「授業力」のさらなる向上をめざす。
- (5) 平成29年度 学校経営推進費事業による「ICTを活用した授業」の充実を図るためHR教室に設置した短焦点プロジェクターの活用充実やタブレット活用による授業改善の取組みを展開する。
- (6) 講習、補習の計画的実施と内容の充実
- (7) 新しい学習指導要領や大学入試制度改革に向けた準備と対策
- (8) テンミニッツの推進と生徒使用タブレットの活用
※センター試験 対全国平均得点率10%アップ（平成29年度獲得の学校経営推進費による事業の3年間の目標）

2. 21世紀型能力の育成～

高校卒業後すぐの進路だけでなく将来を見据えた社会的・職業的自立に向け、チャレンジ精神を持って進路を切り拓く実践的な態度を育成する

- (1) 新たな時代に対応する3年間のキャリア教育計画・進路指導の改善・進路ガイダンス機能の向上に取り組む。
- (2) 生徒主体のHR活動や行事の企画運営や生徒会活動・部活動の充実を進め、自立心や主体的に行動する力を養う。
- (3) 人権教育や総合的な学習の時間等の取組みを充実させ、他人を思いやる豊かな心や人権尊重の精神のや国際感覚の育成を図る。
- (4) 生徒のコミュニケーション力を向上させる取組みを充実させる。
- (5) 社会貢献やボランティア活動、各種コンテストの推奨
※生徒向け学校教育自己診断における「命の大切さ、人権を学ぶ」の肯定率（H29 76%）を2020年度には85%にする。
「自分の考えをまとめたり発表する機会」の肯定率（H29 84%）を2020年度には93%にする。

3. 学校力のパワーアップ

- (1) 新しい組織の充実 横断化・全体化するためのシステムづくり
- (2) 目標と成果の共有、当事者意識に基づく協働の推進による質の高い教育実践のためのRPDCAサイクルの浸透
- (3) 課題別、経験別の職員研修体制の充実を図り教員力のさらなる向上を図る
- (4) 教育相談体制のさらなる充実等により、事象の早期発見早期対応につなげる。
- (5) 広報体制を確立し、生徒の活動の様子や学校の取組みを学校ブログやホームページ等により、継続的に生徒・保護者・中学生・地域等へ発信する。
- (6) 教員力を最大限に引き出すため、「働き方改革」について整理検討する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 30 年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【生徒編】</p> <p>○質問全15項目のうち「①そう思う、②どちらかと言えばそう思う」と肯定的に回答した生徒が80%を超えた質問は、今年度は9項目（H29は9項目H28は10項目）だった。「命の大切さ・人権」「部活動に対する意欲」が80%を超えた一方「教育方針がわかりやすい」の項目が80%を下回ってしまった。また「寝屋川高校生であることの誇り」が72.9%と常に伸び悩んでいることが多きな課題である。</p> <p>○「入学してよかったと満足」について強く肯定した生徒が51%（H29 56% H28 55%）と、ここ子2年間の上昇傾向にストップががかってしまった。様々な学習活動や生徒が自己実現できる機会を重視する教育方針の徹底をさらに進める必要がある。</p> <p>○強く肯定した生徒が30%以下であった項目は、「教育方針・教育計画の分かりやすさ」（26%、H29%）、「健康の保持増進・安全対策」（27%、H29 28%）、「自分で計画を立て家庭学習」（29%、H29 29%）「部活動と学習の両立」（26%、H29 30%）である。より厳しくなっている項目が多い。</p> <p>授業改善等取組みをさらに進めていく。また、今年度の様々な災害を鑑み今まで以上に防災意識向上のための取組みの工夫が必要である。</p> <p>【保護者編】</p> <p>○全15項目のうち「①そう思う」と30%以上の保護者に強く肯定してもらえた項目の数が11項目10項目（H29 10項目、H28 8項目）。H26年度は5項目であり徐々に成果を上げている。</p> <p>○最重要事項である「入学させてよかったと満足している」という質問では、強く肯定が55%（H29 55%、H28 58%）で横ばいであり今後とも努力が必要である。今まで積み上げてきた改善や教職員一丸となった指導を粘り強く続けていく。</p> <p>○強く肯定が20%未満の項目は「施設設備・学習環境」1項目となった。しかし、「学習指導」については22%（H29 20%）と楽観できない結果である。引き続き改善策を講じていく。</p> <p>○「保護者の期待や願いに応える」の肯定が90%で昨年より2%下がったことは重く受け止め、引き続き生徒一人ひとりの自己実現を大切にすることを進めていきたい。</p> <p>【教職員編】</p> <p>○「教育相談」「人権教育」でやや数値が向上しているが、十分と言うにはまだまだ努力が必要である。</p> <p>○「指導内容や指導方法の工夫・改善に努めている」については、92%と高い数字となっているが、昨年度は98%であり下がっている。引き続き授業研究の取組みを進めていく。</p>	<p>【第1回】（日時）平成30年7月31日（火）10:00～11:30（於）校長室（出席者）委員5名（事務局）校長、教頭、事務部長、首席1名、指導教諭1名、教諭2名</p> <p>1. 会長・副会長および学校運営協議会（全日制部会・定時制部会）会長の選出</p> <p>2. 協議（学校側から○の項目について説明）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○校則について ○平成31年度使用教科書について ○平成29年度学校教育自己診断アンケート集計結果および結果と分析 ○学校経営計画および学校評価について <ul style="list-style-type: none"> ・パッケージ支援（研修）の取り組み（年2回の研修など） ・進学実績について ・授業力向上の取り組み ・全教室へのプロジェクター設置など <p>●協議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業改善、教員研修を積極的に取り組んでほしい。 ・市教育委員会からの立場として、寝屋川高校に還元できることは協力したい。 ・1年生のうちから生徒に高い向上心を持たせてほしい。 ・自己診断アンケートについて、生徒の自己肯定感をいか持たせるかということおよび人権教育の課題解決の提言。 <p>【第2回】（日時）平成30年12月17日（月）16:00～17:00（於）校長室（出席者）委員5名（事務局）校長、教頭、事務部長、首席2名、指導教諭1名、教諭3名</p> <p>1. 協議（学校側から○の項目について説明）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校経営計画および学校評価の進捗状況について <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談関係 — SVケース会議・生徒支援会議について報告 ・ICT研修 — ICT研修について ・授業力向上について — 授業見学週間、パッケージ支援Ⅲについて ・前期授業アンケート — 前期授業アンケートの結果報告 ・進路関係 — 平成30年入試進学実績 今年度センター受験者数 ・修学旅行について <p>●協議内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT（クラッシー）については、セキュリティー面および学校全体での取り組み強化していくこと。また、タブレットの使用についてゴールとしての目標値を設定すべきなど。 ・授業改善については、授業見学週間があると、見学するきっかけになる ・授業アンケートでは年度の比較だけでなく、目標値は高く持ってより明確に設定すべきなど。 ・生徒支援会議については個別での会議の内容が全体で共有できているので、情報の引継ぎが重要である。 <p>【第3回】（日時）平成31年2月4日（月）13:00～15:00（於）校長室（出席者）委員5名（事務局）校長、教頭、事務部長、首席2名、教諭3名</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校経営計画および学校評価の進捗状況について <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断について ・平成30年度学校経営計画について ・平成31年度学校経営計画について ・センター試験に関する資料等 ・後期授業アンケート <p>●授業見学について各委員からのコメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクティブラーニングのツールの一つとして、プロジェクターを使用するにあたってのメリットとデメリットについて ・生徒と教員の双方向のコミュニケーションのあり方と主体的で自主的な深い学びについて ・公開授業見学された授業における言葉の明確さと各単元の適切な目標設定について <p>●平成31年度の学校経営計画（案）の検討について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断アンケートの分析との関連 ・全般的には高い数値ではあるが、伸び悩みの項目についての取り組み

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
学力を伸ばす	<p>(1) 恒常的な授業改善により、「基礎・基本の徹底、その上に成り立つ生きる力の育成。 ア 授業改善の取組みを進める</p> <p>イウ ICT機器等の積極的活用</p> <p>(2) 新しい学習指導要領や大学入試制度改革に向けた準備と対策</p> <p>(3) 学校全体で組織的な授業力改善研修の実施</p>	<p>(1) ア指導教諭を中心に授業力向上の取組を進め、授業評価や外部模試の結果等を踏まえた授業改善に取り組む。また、研究公開授業や内外の研修また、大学や地域の中学校との研究等を通して、授業形態・授業方法の研究・改善に取り組む。 さらに、相互授業見学の拡大を図るとともに、教科会議を活性化させ、シラバスの充実を図り、カリキュラムの検討を進める。 イ ICT機器や視聴覚機器を積極的に活用し、授業わかりやすさや効率・集中力を高める。 ICT活用促進のための研修を実施する。その際、積極的に活用している教員を講師とするなど、相互の教員力向上を図る。 ウ H29の学校経営推進費事業による、HR教室短焦点プロジェクター等の活用により、学力向上の取組を進める</p> <p>(2) ア新しい学習指導要領の研究および対策について検討 イ大学入試制度改革の研究および対策について検討</p> <p>(3) 教育センターのパッケージ研修Ⅲを実施</p>	<p>(1) ア ・生徒向け学校教育自己診断における、授業に関する満足度 「教え方の工夫・授業がよくわかる」を85%以上(H29 82%) ・相互授業見学週間の実施</p> <p>イ・技術段階別の、ICT活用研修を実施する。</p> <p>ウ・外部産業のテストにおける生徒の学力レベルにおいて50%以上の生徒がランクアップ。</p> <p>(2) ア管理情報室を中心とした検討会議を定期的実施し職員に発信 イ研究開発室中心とした検討会議を定期的実施し、職員に発信 (3) 教員の授業に関する取組指標アンケートの実施</p>	<p>(1) ア ・81.2% (△) ・平成30年11月12日～22日実施 31人33講座のコメントの共有 (○) ・新しい学習指導要領検討を見据え、現カリキュラムを検討、し、次年度入学生からの一部改定を決定。</p> <p>イ ・第1回平成30年9月6日 実施 全体で共有する内容 (○) ・第2回平成30年12月3日 実施 実際に使っている教員の実践を共有 (○)</p> <p>ウ ・全学年において学力は向上し、全体では70%以上 (◎)</p> <p>(2) ア カリキュラム検討会議の実施 定期的実施発信 (○) イ 定期的実施、都度発信している (○)</p> <p>(3) パッケージ研修や授業改善にかかる研修ごとにアンケートを実施し、その結果を次回研修等で共有・分析し次に活かすを繰り返した。(○)</p>
21世紀型能力の育成	<p>(1) 基本的人間力の鍛錬</p> <p>(2) 文化的・芸術的活動や読書活動の推進</p> <p>(3) コミュニケーション能力の育成</p> <p>(4) 社会貢献・ボランティア活動の積極的参加推奨</p> <p>(5) 様々な体験活動を通じた人権感覚と国際感覚の涵養</p>	<p>(1) 挨拶、時間、清掃、感謝、貢献について日常的に全職員で指導に当たる。</p> <p>(2) 2年生の芸術鑑賞、3年生の文楽鑑賞のほかに授業や部活動を通してコンテストに参加を積極的に呼び掛け、機会を多く設定する。文芸Gが中心となった読書マラソンや各種コンテストにチャレンジを呼び掛ける</p> <p>(3) 学校経営推進費支援機器を活用しプレゼンや発表の機会を校内外で実</p> <p>(4) 寝屋川市や市内中学校、福祉施設など外部との連携交流推進</p> <p>(5) 2年人権探究学習の定着と組織的な国際交流活動の充実</p>	<p>(1) 全職員で実施</p> <p>(2) 全員対象の読書コンクール ・読書マラソンの実施 ・その他コンテスト参加</p> <p>(3) 修学旅行プレゼン、人権探究学習、英語コンテスト実施</p> <p>(4) 寝屋川市や小・中学校との様々な連携 ・様々な形で全員が実施</p> <p>(5) 人権教育の評価 肯定80% (H29 76%)</p>	<p>(1) 全教職員で指導実施 (○)</p> <p>(2) 校内学芸コンクール実施 ・読書マラソン達成者 9人 ・献血啓発ポスターコンクール 12名入賞 (入賞27名中) ・京都・大阪数学コンテスト 2名入賞 (入賞30名中) ・情報モラル等その他多数応募入賞 (○)</p> <p>(3) ・修学旅行行き先別相互プレゼン実施、 ・1・2年生英語スピーチコンテスト全員参加。 2年生はプレゼン形式で実施。 ・人権探究学習テーマ別で実施 (○)</p> <p>(4) ・寝屋川市若者会議(参加40人中生徒8人、教員3人参加)、 ・小学生向け理科教室、生徒がリーダー役になり実施。 ・中央小学校へスポーツテスト支援交流実施 ・その他清掃活動や、部単位の活動等で多数実施 (○)</p> <p>(5) 87.4% (○)</p>
学校力のパワーアップ	<p>(1) 目標や成果の共有と協働に努め、職員の一体化をはかる</p> <p>(2) PDCAサイクルによる改善志向の定着</p> <p>(3) 教員の研修体制の構築 ア ミドルリーダーを育成する。 イ OJTを基本とした実践的な研修を計画的に実施。 ウ 内外の研修参加による資質向上</p> <p>(4) 教育相談機能の充実</p> <p>(5) 学校広報と情報発信機能の充実</p> <p>(6) 働き方改革について検討</p>	<p>(1) めざす学校像・育てたい生徒像を共有する機会を常に設ける。</p> <p>(2) 学校教育自己診断。学校運営協議会に意見等の学校運営改善への反映</p> <p>(3) ア次代のミドルリーダーとなる教員研修の実施。現ミドルリーダーをけん引役として実施し相互向上を図る。 イ中堅教員を初任者研修の一部の講師とし相互の育成を図る。経験の少ない教員に対しては、地域行事や学校説明会等に積極的に参加させる。 ウ 府教育センターの研修や、大学と連携した研修、校内研修により継続的な教員の資質向上を図る。</p> <p>(4) 教育相談にかかる理解を深める機会を増やし常に共通理解に努める</p> <p>(5) 学校紹介 PP や学校案内(次年度向け)のリニューアル</p> <p>(6) 働き方改革について検討する</p>	<p>(1) 目標共有にかかる職員自己診断結果 肯定 80% (H29 74%)</p> <p>(2) PDCAサイクルにかかる職員自己診断結果 肯定 70% (H29 67%)</p> <p>(3) 実施回数と振り返り ・5回以上</p> <p>(4) 職員自己診断結果 肯定 85% (H29 81%) 生徒自己診断結果 肯定 80% (H29 75%)</p> <p>(5) 生徒や経験の少ない教員なども参画し、リニューアルする</p> <p>(6) 時間外勤務時間 10%減</p>	<p>(1) 63.5% (△)</p> <p>(2) 50% (△) ・学校教育自己診断分析結果をもとに育てたい生徒像、目指す授業増について職員研修を実施。</p> <p>(3) アイウ ・教育Cリーダー研修受講者、10年研受講者による校内授業改善、若手指導等の研修の実施 ・教職大学院で学ぶ教員による授業改善にかかる研修実施。 ・リーダー研修に3名参加。 ・大教大教師の学び舎延べ5人参加 (○)</p> <p>(4) 職員 80.8%、生徒 76.6% (△)</p> <p>(5) 年度末に向けてリニューアル実施中</p> <p>(6) 時間外労働 4～12月の比較では約20%増。(△) (生徒への個別の丁寧な対応および土日の部活動付添が原因。現在月平均41.4時間を30時間台へ減少させたい)。</p>